



空間としての図書館

法学部教授 遠藤博也

この前の大学祭の折に教養部本館の教養祭を見物に行った。軒を並べた音楽喫茶、ディスコ、スナックでは客の呼び込みの声も騒がしく、まるでススキノの雑居ビルに足を踏み入れた雰囲気である。「大学の施設を用いて飲食店営業をするとは何事であるか」と何年か前の自分なら腹を立てるところだが、この時は外来の客を案内して面白い雰囲気を楽しむつもりだったし、事実、結構楽しかった。たまたま入って腰を下したフォークダンスクラブ経営の店では日頃の研鑽ぶりをいかにもさわやかに見せてくれたし、陽もなお高い定刻時頃には多くの部屋で早々と後片付けに余念がなかった。先程までの喧噪が嘘のように飾りつけも半分以上とられた教室の窓一杯に西日が映えているのを見ると、やはりススキノとはちがって、ひとときの祭りにすぎないと思わざるをえなかった。祭りの後でサーカス小屋が片付けられていくのを見ると同じで、一抹の感慨とともに、同じ広がりをもった空間がわずかの飾りつけの具合で全くちがったものとなる驚きをあらためて感じたわけである。

また最近、なじみのスナックが同じビルの中で場所を変えたというので行ってみたところ、インテリアのちがいはばかりでなく、エレベーターをおりて歩き出す方向、店の中のカウンターの位置が前とは丁度逆になっている。このためどうも落ち着かない。地下街を歩いても視線の流れる方向に左右のかたよがりがあるようだし、教授会でも普段と逆の場所に坐るとやはり落ち着かない。慣性とか惰性もずいぶん働いてのことだろうが、空間にも左キキ右キキの差があるらしい。このように空間に対する人の感覚が微妙なだけに、みんな自分の好みの空間を作り出そうと工夫をこらすのだろう。われわれも研究室の中で机やソファの置き方次第でささやかな個性を作り出している。学生も無味乾燥な大学の空間をいっとき自分たちの感覚で塗り変えて新しい空間を作り出したい気持が強いのだろうと推測される。

自分が学生時代に好きな空間の一つは大学の図書館だった。何百人かのマンモス講義づくめの教室を逃げ出すと、ほとんど毎日1時間ほど図書館に坐りに行った。閲覧室もだだっ広かったが、おのずから私語を封ずる静謐な雰囲気が支配して、なまけものの身をひきしめてくれるような気がしたからである。いつも坐る席のななめ向いに、和とじの古文書ふうの書籍を高くつみあげて悠々せまらず読書三昧にふけていた人の姿があったことも忘れられない。坊主頭でたしか和服姿で背筋をしゃんとのぼした姿は、何年も前からそのまま何年後もやはり同じ姿でいそいで、そんな場所で講義の教科書や参考書の類を開くことを気恥しく思いながら、

そんな人の姿をぬすみ見て時間をつぶした。それによって自分も同じ学問の仲間のような錯覚を味わっていたらしい。

大学の図書館には、本誌前号で館長の高嶋先生が書いておられるように、さまざまな機能がある。当然それらの機能をはたすには容れものとしての空間が必要である。実際には、行財政上の制約のもとで、思い通りの空間を作り出すことは容易でないであろうことは想像がつく。あまりぜいたくな夢を描くことは現実には許されないことであろう。しかし、大学創基80年、100年の記念に、立派なレストランもある会館を建てたわが北大の実力をもってすれば、他に例をみないようなぜいたくな図書館をつくることも不可能ではないと思われる。図書館委員も日常実務的な用務ばかりではなく、このような夢を描かせてもらえるなら大変楽しい仕事であろう。

◆ 会 議

第96回 図書館委員会

<と き 昭和54年4月28日(土)>
<と ころ 附属図書館会議室>

1. 昭和53年度決算報告について
2. 昭和54年度予算(案)について
3. その他

第97回 図書館委員会

<と き 昭和54年5月6日(土)>
<と ころ 附属図書館会議室>

1. 昭和54年度図書資料(大型コレクション)の収書計画について
2. 昭和54年度予算配当案について
3. その他

第61回 教養分館委員会

<と き 昭和54年6月5日(火)>
<と ころ 教養分館長室>

1. 昭和53年度図書費決算及び昭和54年度図書費予算について
2. 昭和54年度教官指定図書の選定について
3. 北海道大学附属図書館教養分館視聴覚室利用要項について
4. 昭和54年度前期演習室の利用について
5. その他

第62回 教養分館委員会

<と き 昭和54年7月6日(金)>
<と ころ 教養分館長室>

1. 参考図書の選定について
2. その他

全学図書(担当)掛長連絡会議

<と き 昭和54年4月23日(月)>
<と ころ 附属図書館会議室>

1. 第11回北海道地区国立大学図書館協議会について
2. 昭和53年度図書(図書及び新聞・雑誌)購入実績について
3. その他

全学図書(担当)掛長連絡会議

<と き 昭和54年5月21日(月)>

<ところ 附属図書館会議室>

1. 昭和54年度図書資料(大型コレクション)の取書計画について
2. 文部省外国雑誌購入費による雑誌の購入について
3. その他

全学図書(担当)掛長連絡会議

<と き 昭和54年6月8日(金)>

<ところ 附属図書館会議室>

1. 昭和54年度会計実地検査について
2. その他

全学図書(担当)掛長連絡会議

<と き 昭和54年7月11日(水)>

<ところ 附属図書館会議室>

1. 昭和54年度会計実地検査の受検事項について
2. その他

第26回 国立大学図書館協議会総会

第26回総会は、去る6月20日(水)から6月22日(金)までの3日間にわたり、大阪科学技術センター(当番 近畿地区協議会、会場館 大阪大学)において開催された。

参加校は本学はじめ87大学であり、ほかにオブザーバーとして図書館短期大学および国文学研究資料館が参加した。

参加者は館長、事務部長、課長、事務長等216名、さらに文部省より情報図書館課田中専門員および糸金大学図書館係長が列席された。

会議は第1日目準備理事会、第2日目開会式、諸報告、協議、国立大学図書館協議会賞受賞者表彰式、研究集会、第3日目分科会、全体会議、閉会式の順で行われた。

主な事項は以下のとおりであった。

I. 各地区協議会報告

各地区連絡館より、地区協議会の活動状況について報告があった。

II. 各調査研究班報告

「図書館機械化」調査研究班、「図書館相互協力」調査研究班各主査より、それぞれ調査研究状況について報告があり、「図書館機械化」調査研究班は、報告書の公刊をもって任務を終了了解散すること、「図書館相互協力」調査研究班は、継続することとなった。

III. 昭和54年度国立大学図書館協議会賞受賞者

岸本英夫博士記念基金規程第4条に基づき、国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会を開催し、応募3件につき審査した結果、理事会において下記2件について受賞が決定した旨報告があって、それぞれ表彰された。

1-1) 応募区分 「図書館活動における功績」

2) 受賞者 広島大学附属図書館業務機械化研究グループ 代表者 板垣護人

3) 件名 「逐次刊行物オンライン処理システム(POPS)の開発」

2-1) 応募区分 「図書館活動における功績」

2) 受賞者 東京大学工学部建築学科図書室 宮崎萬壽

3) 件名 「建築二次資料の作成」

IV. 研究集会

「大学図書館機械化実施上の諸問題」をテーマとして、香川大学附属図書館事務長西山 喬氏の「香川大学附属図書館における業務機械化について」、東京学芸大学附属図書館事務部長宮武正義氏の「閲覧業務共同

処理システムの開発と実施について」、広島大学附属図書館事務部長藤田善一氏の「業務機械化実施上の諸問題」についてそれぞれ報告があり、滋賀医科大学附属図書館長野崎光洋氏がこれをまとめ、それにもとずいて活発な討論が行われた。

V. 分科会

第1分科会(運営・サービス)

協議事項および要望事項 (1) 図書館機能の整備に関する諸問題 (2) 図書館建築必要面積算定基準の改訂の促進について (3) 開館時間の延長に伴う諸問題、とくに夜間学部を置く大学に対する諸経費の計上について

第2分科会(予算)

協議事項および要望事項 A. 「図書館経費」関係 (1) 図書館維持費の増額等について (2) 業務の電算化に伴う経費の文部省配分について B. 「図書館設備費」関係 (1) 学生用図書購入費をさらに増額すること (2) 参考図書購入費を増額すること (3) 特別図書購入費を増額すること (4) 共同利用図書購入費の新設について (5) 外国雑誌購入費をさらに増額すること (6) 人文社会科学系外国雑誌購入費の新設について (7) 新設大学基幹図書購入費の設定について (8) 大学図書館業務の共同処理計画に対する助成について C. その他 (1) 図書館職員の研修旅費の増額について 特別協議題「図書館予算の望ましい方向について」

第3分科会(人事)

協議事項および要望事項 1. 図書館職員の増員について (1) 図書館職員の増員について (2) 参考業務担当職員の増員について (3) 相互協力業務担当職員の確保増員について (4) 夜間・休日開館に必要な定員増について 2. 機構整備強化と待遇改善について (1) 図書館事務(部)長・課長の管理職手当の引き上げについて (2) 図書館に事務長補佐の新設・増員について (3) 分館長に管理職手当の支給について (4) 図書館職員の等級別定数の拡大について (5) 図書館職員の4等級昇格について (6) 図書館職員の待遇改善について

以上の各地区提出議題について、活発な討論が行われた。

VI. 全体会議

上記分科会において提案・討議されたまとめについて、各分科会主査からの報告があり、討議の結果、採択事項をまとめ関係方面へそれぞれ要望していくこととなった。

VII. その他

今回の総会は、東北地区協議会が当番となり、東北大学が会場館として昭和55年6月19日(木)、20日(金)の両日東北大学記念講堂において開催されることとなった。

◆ 学内図書館だより

北海道大学国連寄託図書館業務の移管について

北海道大学国連寄託図書館は、昭和37年6月経済学部に設置されその業務が行われてきたが、昭和54年4月1日から附属図書館にその業務が移管された。

当該資料は、国連事務局で発行している出版物と文書の一部を学内共同利用図書として購入しているもので、現在附属図書館4階の国連コーナーに配架されている。

教養分館視聴覚室の開室について

教養分館4階視聴覚資料コーナーに、この7月から視聴覚室が開室した。

本視聴覚室は、既設のビデオ視聴室が個別学習を目的としたシステムであるのに対し、多人数による集団視聴を目的としており、装置としてカラービデオプロジェクトンシステムが導入されている。この装置は、VTR、16mmフィルム、テレビ放送などのカラー画像を専用の大型スクリーン(120型240×180cm)に映し出す装置で、定員も62名まで収容することができる。教養分館所蔵資料を使用して研修などにも広く利用されることを期待している。

利用方法は、下記の「北海道大学附属図書館教養分館視聴覚室利用要項」のとおりである。
なお、申込受付は教養分館事務室（閲覧掛）で行っている。 (教養分館)

北海道大学附属図書館教養分館視聴覚室利用要項

(趣 旨)

第1 視聴覚室の利用については、北海道大学附属図書館閲覧規程に定めるもののほか、この要項の定めるところによる。

(利用者の範囲)

第2 視聴覚室を利用できる者は、本学の職員および学生とする。ただし、学生にあっては当該利用に際し、直接指導する教官が引率するものでなければならない。

(利用の手続)

第3 視聴覚室の利用を希望するときは、教養分館閲覧掛に申し出て、所定の手続きを行わなければならない。

(利用上の注意)

第4 視聴覚室を利用する者は、次のことを守らなければならない。

1. 図書館利用の目的以外の目的に使用しないこと。
2. 図書館に備え付けてある資料を用いること。
3. 施設・備品などの保全に努めるとともに、万一これを損傷したときは、直ちに掛員に申し出てその指示に従うこと。

(利用時間)

第5 利用時間は次のとおりとする。

1. 平日 午前9時から午後4時30分まで
2. 土曜日 午前9時から正午まで

(附 則)

この要項は、昭和54年7月1日から実施する。

視聴覚資料目録 (ビデオ資料4)

題 名 (作 品 名)	時間 (分)	指 導 ・ 監 修 等
(医学関係)		
胃のX線診断 現代臨床医学大系	27	順天堂大学 白壁 彦夫
肝炎の臨床 //	26	新潟大学 市田文弘
虚血性心疾患の診断と治療 //	27	昭和大学 新谷博一
救急蘇生法の実際 //	26	東北大学 岩月賢一
め ま い //	26	長崎大学 渡辺 勲
乳癌の外科 //	26	群馬大学 藤森正雄
ペインクリニック //	26	大阪大学 恩地 裕
食道癌の外科 //	26	東京女子医科大学 中山恒明
小児外科—消化管奇形— //	26	順天堂大学 駿河敬次郎
早期胃癌の診断と治療 //	26	順天堂大学 村上忠重
糖尿病の診断 //	26	東京慈恵会医科大学 阿部正和
心臓の診かた—聴診のコツ—	26	国際親善総合病院 和田 敬
心臓の診かた—視診・触診のコツ—	25	同 上

題 名 (作 品 名)	時間 (分)	指 導 ・ 監 修 等
フレキシブル気管支ファイバースコープ検査法	27	国立がんセンター 池田茂人
免疫の概念と展望	30	東京大学 山本正
免疫異常症(総論)	29	日本大学 浜島義博
発癌及び胆癌と免疫	29	大阪大学 北川正保
自己免疫の成立機序	29	東京大学 松橋直
抗原抗体反応	30	東京大学 鈴木鑑
抗体の化学	30	金沢大学 右田俊介
細胞免疫	30	群馬大学 三橋進
ワクチン論	29	国立予防衛生研究所 甲野礼作
(語学関係)		
People You Meet, 5: The Party	15	
People You Meet, 10: The Library	15	
Songs Alive, 7: Waltzing Matilda	30	
Teaching Observed, 4: Practicing New Language	25	
Teaching Observed, 9: Reading Comprehension	25	
Десять Фильмов и Сюжет (Русская Речь, Советская Страна 導入編)	9	
В Нашем Детском Саду (" 1)	18	
Женщины Делают Погоду (" 2)	15	
Второе Призвание (" 3)	17	
От Карпат до Тихого Океана (" 4)	20	
Когда приходит Праздник (" 5)	17	
Начинаю Спортивную Жизнь (" 6)	16	
В Нашем Институте (" 7)	18	
Александр Колосов Рабочий (" 8)	20	
День в Колхозе (" 9)	19	
В Нашей Школе (" 10)	20	
(The Open University 関係)		
A Time for Change; the Calculus (The History of Mathematics AM 289/07)	30	
The Heavens Are Telling (Science and Belief; from Copernicus to Darwin AMST 283/01)	25	
Genetic Code (Science Foundation Course S 100/17)	24	
Cells and Organisms (Science Foundation Course S 100/18)	30	
Meiosis (Genetics S 299/03)	25	
Cells and their Ultrastructure (Physiology of Cells and Organisms S 321/01)	25	
(そ の 他)		
エルムの学園	41	企画 北海道大学
街のこころ さっぽろ・今むかし (札幌市創建110年記念)	25	企画 札幌市

資料紹介

昭和 53 年度特別図書購入費で購入した図書

西藏大蔵経<デルゲ版> (マイクロフィッシュ)

本大蔵経は、高野山大学図書館所蔵のデルゲ版のマイクロフィッシュである。内容は仏説部 (カンジュール) と論疏部 (テンジュール) とに分かれ、317 通帙、総葉数 10 万 (フィッシュフィルム 2,137 シート) に及ぶ仏教の一大文献である。チベット大蔵経としては、このほかに北京版 (その影印版は本学所蔵)、ナルタン版、チョーネ版、ラサ版などがあるが、校訂・印刷の点においてデルゲ版が最もすぐれており、学術上きわめて貴重な文献である。

Berufsbildung. Jg. 1~24 (1947~1970)

(職業教育)

本誌は、ドイツ民主共和国 (DDR) の職業教育に関する専門誌である。DDR における職業教育・職業訓練に関する分析を試みるに不可欠の資料である。本誌は、DDR における職業教育制度の変遷、職業教育と普通教育の相互関係、科学技術革命と教育制度、経済計画と教育計画、学校と企業・行政諸機関・労働組合・その他諸組織などの相互関係、社会主義経済の建設と職業陶冶、職業教育の国際比較、職業教育の内容と体系、などの諸テーマについてゆたかな諸資料・諸事実を提供してくれる。

本誌がカバーしている時期は、DDR の建国以前から現在にいたるまでであり、この間 DDR は、反ファシズム民主主義革命 (ブルジョア民主主義革命の完成を含む) から、社会主義への移行期を経て、社会主義の全面的建設期を経て現在に至っている。従って本誌は、社会主義体制下の職業教育の問題のみならず、資本主義から社会主義への移行期における人格形成と職業教育の問題についても、恰好の諸事実を提供してくれる。なお、1971 年以降については教育学部図書室で所蔵している。

Педагогический Сборник. (1864~1917)

(教育学論集) マイクロフィッシュ

農奴解放から十月革命にいたるロシア資本主義の重要な時期の全般にわたって発行されていた月刊教育学雑誌。主に、教育学理論、教授法、教育史の論文が多く、リエースガフト (П. Ф. Лесгафт) やゲルト (А. Я. Герд) など著名な教育学者が寄稿した、教育学研究の進歩的雑誌である。

Русский Начальный Учитель. (1880~1911)

(ロシアの小学校教師) マイクロフィッシュ

ラトウイシェフ (В. А. Латышев) が発行したロシアの小学校教師を対象とした雑誌で、コルフ (Н. А. Корф) の初等普通教育理論の普及と、小学校教師の資質の向上、権利の保障のために貢献した。編集傾向はブルジョア自由主義的なものである。

United Nations Treaty Series.

(国際連合条約集)

国際連合の加盟国は、国連憲章にもとづいて、自国が締結したすべての条約を国連に登録しなければならず、登録された条約は国連事務局から公表されることになっている。それが本資料である。条約の登録・公表は、国際社会の平和にとってまま有害な作用をもたらす秘密条約をなくそうとする趣旨で、国際連盟の時代から行われている（それらは「国際連盟条約集」として刊行された）。

国際連合条約集は、戦後各国が締結した条約を収録しており、今日における国際的な一種の法令集といえる。研究や教育の必要上、いずれかの条約の原文に当たりたいときは、本資料を参照すると便利である。

Biblioteca dell' Economisti.

Series 1: Vols. 1-13. (1850~1864)

Series 2: Vols. 1-13. (1856~1868)

Series 3: Vols. 1-15. (1876~1908)

Series 4: Vols. 1-10. (1896~1905)

Series 5: Vols. 2-4, 6-7, 11, 16, 18, 20. (8, 9, 12-14, 17 never publ.)

Torino (Unione Tipografico Editrice)

(経済学者叢書)

この叢書は、1850年から20世紀初頭にかけて、約半世紀の歳月を費やしてイタリアで出版されたものである。イタリアの経済学者叢書と言えば、クストーディ (Custodi) のコレクションが想起されるが、クストーディは収録範囲をイタリアの経済学者に限っており、年代も大体18世紀末で終わっている。これに対して当叢書は、18世紀については、フィジオクラートとA. スミスのみ止め、あとは同時代、つまり19世紀から20世紀にかけて出された経済学者の著作、論文（論文については問題別の論集のかたちをとっている）を網羅しており、またその範囲もイタリアに限らずイギリス、フランス、ドイツなどに及んでいる。したがって、19世紀の経済学説にかんして、この叢書はきわめて豊富な史料を提供している。編集には、初期のシリーズではF. フェラーラ、中期のそれはG. ボッカルドが当たっている（なお、シリーズの1~3には別巻として人名・事項索引が付されている）。

The Accountant. Vol. 41-50. (1910~1913)

(会計士)

欧米の会計学雑誌には数多くのものがあるがその中でもこの雑誌は権威ある世界最古の雑誌として知られている。

今日の雑誌とことなり当時の会計雑誌は会計処理の係争事件も多く記述されているため、当時の会計事務の混乱及びそれを批判する基準としての当時の会計学一般理論を探るには絶好の文献である。

Statistik des Deutschen Reichs.
Neue Folge. Bd. 261-331. (1913~1924)

(ドイツ帝国統計)

ドイツ第2帝政時代の全国統計書で Statistisches Jahrbuch des Deutschen Reichs (ドイツ統計年報) を整理増補し、テーマ項目別に2~3年分をそれぞれの巻に収録している。

◆ 受 贈 図 書

本学教官の著作物

[本 館]

○文 学 部

- 田中 彰 (校注) 特命全権大使米欧回覧実記 (二) (岩波文庫 141-2) [岩波書店]
 田中 彰 未完の明治維新 —新版— (三省堂選書 55) [三省堂]
 田中 彰 近代天皇制への道程 [吉川弘文館]
 佐伯 有清 最後の遣唐使 (講談社現代新書) [講談社]

○法 学 部

- 今村 成和 独占禁止法 (新版) (法律学全集 52-II) [有斐閣]
 矢田 俊隆 ハンガリー・チェコスロヴァキア現代史 (世界現代史 26) [山川出版社]
 外川 継男 世界の歴史 18 ロシアとソ連邦 [講談社]

○理 学 部

- 中川 鶴太郎 流れる固体 (岩波科学の本 13) [岩波書店]
 中川 鶴太郎 レオロジー (岩波全書 249) [岩波書店]
 中川 鶴太郎 レオロジー 第二版 (岩波全書 249) [岩波書店]
 中川 鶴太郎 私の科学方法序説 [蒼樹書房]
 堀 淳一 地図と風土 [そしえて]
 下地 光雄 Liquid Metals. —An Introduction to the Physics and Chemistry of Metals in the Liquid State. [Academic Press]

○医 学 部

- 大崎 鏡 (共著) 症例から学ぶ呼吸器病学 [中外医学社]
 杉江三郎 (共著) 人工血管 —その進歩と臨床の実際

○低温科学研究所

- 若 浜 五 郎 氷河の科学 (NHK ブックス 319) [日本放送出版協会]

○北海道大学大学院環境科学研究科

- 山 村 悦 夫 地域均衡発展論 [大明堂]

◆ 統 計

部 局 別 蔵 書 冊 数

(昭和54年3月31日現在)

部 局 区 分	和 書	洋 書	合 計	備 考
附 属 図 書 館	369,183	227,858	597,041	
教 養 分 館	64,568	8,240	72,808	
文 学 部	51,399	78,923	130,322	
教 育 学 部	37,311	18,210	55,521	
法 学 部				全蔵書図書館に管理換
経 済 学 部	31,867	24,310	56,177	
理 学 部	39,951	106,122	146,073	
医 学 部	51,741	64,593	116,334	附属病院を含む
歯 学 部	7,795	7,532	15,327	〃
薬 学 部	3,260	8,610	11,870	
工 学 部	137,114	108,714	245,828	
農 学 部	138,159	89,432	227,591	附属農場, 附属演習林を含む
獣 医 学 部	7,857	15,150	23,007	
水 産 学 部	57,281	33,182	90,463	
教 養 部	23,174	11,158	34,332	
大学院環境科学研究科	1,891	420	2,311	
低温科学研究所	4,779	10,482	15,261	
応用電気研究所	3,950	9,594	13,544	
触媒研究所	2,484	7,193	9,677	
免疫科学研究所	1,183	4,506	5,689	
事 務 局	1,785	144	1,929	
学 生 部	600	97	697	
スラブ研究センター	144	1,816	1,960	
大型計算機センター	618	478	1,096	
合 計	1,038,094	836,764	1,874,858	

昭和53年度 部局別図書・雑誌受入冊数

区 部 分 局	図 書							雑 誌						
	和 書			洋 書			計	和 書			洋 書			計
	購入	寄贈 交換	製本 移管	購入	寄贈 交換	製本 移管		購入	寄贈 交換	製本 移管	購入	寄贈 交換	製本 移管	
附属図書館 ¹⁾	4,788	1,686	1,978	9,444	473	3,734	冊 22,103	253	1,706		381	477		種類 2,817
教養分館	3,823	93	114	56	19	19	4,124	181	11		11	1		204
文学部	4,189	306	95	5,366	104	387	10,447	97	785		413	47		1,342
教育学部	1,771	40	237	556	2	235	2,841	215	471		181	2		869
法学部														
経済学部	1,195	404	795	1,696	10	483	4,583	135	777		199	63		1,174
理学部	912	69	165	1,432	105	1,530	4,213	100	228	8	690	234	5	1,265
医学部 ²⁾	1,680	33	707	651	42	1,230	4,343	305	435		752	56		1,548
歯学部 ³⁾	442	53	240	185	7	507	1,434	124	129		204	35		492
薬学部	125	23	50	65	29	399	691	19	22		92	2		135
工学部	4,200	165	1,166	1,648	13	1,940	9,132	315	601		780	47		1,743
農学部 ⁴⁾	2,624	74	568	867	3	807	4,943	496	651	2	618	176	2	1,945
獣医学部	160	8	94	200	2	331	795	31	175		136	177	1	520
水産学部	999	38	460	187		810	2,494	325	715		262	246		1,548
教養部	306			179			485	19	33		92			144
大学院環境科学研究科	1,039			196			1,235	24	18		95	5		142
低温科学研究所	41	81	112	119	137	402	892	40	213		101	203		557
応用電気研究所	130	2	15	219		341	707	38	200	1	113	88	1	441
触媒研究所	64	209	308	102	20	930	1,633	15	72		50	35	1	173
免疫科学研究所	41			76		250	367	12	87	1	48	1		149
事務局	27			11			38	56			1			57
学生部														
スラブ研究センター ⁵⁾	42			432	52		526	16	124	1	73	44		258
大型計算機センター	31			15	66		112	14			31			45
合 計	28,629	3,284	7,104	23,702	1,084	14,335	78,138	2,830	7,453	13	5,323	1,939	10	17,568

- 備考 1) 法学部含む。
 2) 附属病院含む。
 3) 附属病院含む。
 4) 附属農場，演習林含む。
 5) 図書館に管理換1,749冊

昭和 53 年度 附属図書館利用統計

閲覧室名	一般閲覧室		開架図書室		語学 演習室	参 考 室	北 方 資 料 室	合 計
	館内閲覧	館外貸出	館内閲覧	館外貸出				
開館日数	290日	290日	273日	273日	273日	290日	290日	
文学部	441人	1,340人	(入室者統計なし)	2,881人	272人	699人	392人	
教育学部	161	216		758	12	172	60	
法学部	1,143	2,330		5,636	319	882	61	
経済学部	138	392		2,106	318	93	61	
理学部	61	117		2,182	271	79	16	
医学部	10	1		258	51	47	2	
歯学部	3	—		121	—	14	1	
薬学部	6	7		572	8	11	0	
農学部	42	71		1,299	317	54	95	
工学部	122	47		1,447	101	46	104	
獣医学部	4	1		52	5	5	0	
水産学部	4	1		9	—	7	2	
教養部	229	370		3,826	391	56	84	
各種学校	11	1		430	19	0	0	
各研究所						16	48	
教 官	118	2,300		457	105	—	—	
院 生	191	2,676		1,081	245	—	—	
職 員	94	242		810	27	—	—	
学 外 者	641	375		21	—	113	639	
利用者合計	3,419 ¹⁾	10,487	—	23,946	2,461	2,294	1,565	44,172
利用冊数	7,888	24,329	15,717	28,448	2,807巻	97 ²⁾	1,680 ²⁾	80,966

1) 図書の貸出しをうけた人数(座席だけは利用者は含まず)

2) 館外貸出冊数(室内利用は含まず)

昭和 53 年度 附属図書館マイクロ電子・複写業務実績 (館内分を除く)

申込者	複写種類 件数注) (件)	複写論文 点数 (点)	マイクロ フィルム (コマ)	マイクロ フィッシュ (枚)	引伸焼付 (枚)	ゼロックス (枚)	リーダー プリンタ (枚)
学内者	933	1,546	1,705	81	1,642	14,656	7,508
学外者	2,030	4,300	5,766	0	18	46,509	2,187
合 計	2,963	5,846	7,471	81	1,660	61,162	9,695

注) 件数は申込延人数と同じ(複写不能分は含まず)

昭和53年度 学外への文献複写申込件数 (参考掛經由の分)

部局	文学	教育	法学	経済	理	医	歯	薬	工	農
件数	321	39	222	16	225	8	86	23	238	191
部局	獣医	水産	低温	応電	触媒	免疫	教養	附属図書館	環境科学科	
件数	22	79	24	16	0	8	2	30	30	1,580

うち国外申込件数 456件 (アメリカ258, イギリス74, カナダ37, フランス34, 西独11, オランダ10, イタリア8, ソ連6, スウェーデン4, ノルウェー2, 中華民国2, 中国2, その他8)

昭和53年度 図書館相互貸借 (参考掛經由の分)

他館への貸出 84件 (国外へ0件)
 他館よりの借用 147件 (国外より21件)

昭和53年度 教養分館利用統計 (開館日数290日)

閲覧室名	開架図書室		語学演習室		ビデオ視聴室		
	館内閲覧	館外貸出					
文学部		1,373冊	915人	68巻	68人	54巻	36人
教育学部		316	211	—	—	8	6
法学部		1,099	666	4	4	23	15
経済学部		672	399	37	37	17	15
理学部		2,575	1,709	9	9	41	36
医学部		633	457	258	255	72	58
歯学部		122	77	15	15	31	15
薬学部		434	294	12	12	12	11
農学部		726	407	15	15	6	6
工学部		2,601	1,669	113	103	120	104
獣医学部		338	184	50	50	10	10
水産学部		—	—	—	—	—	—
教養部		54,531	37,810	861	810	1,958	1,751
各種学校		896	560	15	15	39	30
教官		390	223	1	1	7	7
院生		279	181	41	41	17	17
職員		1,398	848	16	16	8	7
学外者		5	4	—	—	—	—
合計	15,439	68,388	46,614	1,515	1,451	2,423	2,124

昭和 53 年度 教養分館分類別館外貸出統計

類 別	0	1	2	3	4	5	6
冊 数	1,000	3,804	374	6,587	1,007	22,332	1,609
類 別	7	8	9	文庫・新書	雑 誌	学部学生への 指定図書	合 計
冊 数	2,326	12,793	6,358	8,515	108	1,575	68,388

◇ 人事往来 ◇

新図書館委員

片岡隆四 (農学部教授) 54. 6. 1

配 置 換

今西徳寛 整理課総務掛(教養部会計掛) 54. 5. 1
 渡辺悦子 " (演習林会計掛) "
 阿部貞夫 " (閲覧課参考掛) "
 樋原光豊 " (") "
 清水弘 整理課受入掛(工学部総務課図書掛) "
 川端美明 整理課学術情報資料掛(文学部図書掛) "
 小西和信 整理課整理掛(整理課受入掛) "
 羽川明 閲覧課第一運用掛(旭川工業高等専門学校庶務課図書係) "
 新関教子 " (工学部総務課図書掛) "
 岩本攻 閲覧課参考掛(整理課受入掛) "
 田島郁子 閲覧課第一運用掛(閲覧課第二運用掛) 54. 8. 1

採 用

飯田孝子 整理課教養分館閲覧掛 54. 7. 16
 原麻美子 閲覧課第二運用掛 "
 清野由美子 閲覧課第二運用掛 54. 8. 1

退 職

吉村靖恵 (閲覧課第二運用掛) 54. 6. 30
 佐々木美帆 (整理課教養分館閲覧掛) "
 吉田みづ代 (閲覧課第一運用掛) 54. 7. 31
 原麻美子 (閲覧課第二運用掛) "

北海道大学附属図書館報 「榆蔭」 (通巻51号)

1979年8月8日発行 発行人 矢部一郎

編集委員 横山梅雄(長)・若月修・遠藤雄作・似鳥正吾・野地俊郎・高橋裕・坪田充弘
 遼昭二・平田忠夫・杉尾勝茂・山本幾夫・船木敏美・山口国雄

発行所 北海道大学附属図書館 札幌市北区北8条西5丁目 電話代表 711-2111 (2967)

印刷所 文栄堂印刷所 札幌市中央区北3条東7丁目 電話代表 231-5560-5561